

pon

kanpi-sos

ポン カンピソシ



1

アイヌ文化紹介小冊子

イタケ

はなす



本書のねらい

1994(平成6)年12月10日から、国際連合が採択した「世界の先住民の国際10年」が始まりました。

北海道立アイヌ民族文化研究センターでは、1995(平成7)年度より、「国際10年」への取り組みの一環として、アイヌ文化について紹介するパンフレットを刊行することにいたしました。

第1巻目は、まずアイヌ語をとり上げ、文法のあらましや簡単な日常会話の紹介をはじめ、アイヌ語地名、現代の伝承、復興までの動きなどにも触れています。

小さなパンフレットですが、アイヌ文化の理解を深めていただくとともに、アイヌ文化に関心を持たれた方々の手引きになれば幸いです。

ポン カンピ ソシ
pon kanpi-sos 小冊子
小さい紙 束

イタク 話す、言葉
itak

*アイヌ語は、アコロイタクまたはアンコロイタクと言います。
私たちの言葉

目次

[1] アイヌ語とは	
アイヌ語の成り立ち	2
アイヌ語の歴史	3
アイヌ語の現状	4
[2] アイヌ語を学ぶために	
アイヌ語の文字と表記	6
方言と地域	10
アイヌ語の文法	12
アイヌの口頭文芸	14
[3] アイヌ語に親しむために	
単語と会話例	16
アイヌ語の地名	24
アイヌ語を学ぶための参考書	29
アイヌ語教室	32

この小冊子での市町村名の記述は、施設の住所等を除き、すべて平成15年度時点の市町村に基づいています。

[1] アイヌ語とは

アイヌ語の成り立ち

アイヌ語はどのようにして成り立ったのでしょうか。アイヌ語と日本語はどのような関係があるのでしょうか。

アイヌ語と日本語がもとは同じ言葉だったという人もいます。しかし、今のところ正しいアイヌ語の知識と研究方法に基づいて、十分な根拠を示している説はありません。「カムイ」と「神」のように似た言葉も多少ありますが、それらは借用語かもしれません。

また、その周辺の言語である日本語・朝鮮語（韓国語）・サハリンのニブフ語などの言語もその成り立ちがわかっていません。アイヌ語の成り立ちは、日本語と同じようにまだ未解決のままといえます。

The History of the Ainu Language:

Like many other languages of the Far East region, such as Japanese, Korean and Nivkh of Sakhalin, the origin of the Ainu language is unknown.

Since the Meiji era, due to the Japanese assimilation policy toward the Ainu, the Ainu language had been used less and less for everyday communication. However, during this period, some Ainu people have made an effort to record both what they have heard from others and their own knowledge of the Ainu language and oral tradition.

Since 1970', Ainu language classes have taken place in the form of small study groups. At present, Ainu language lessons are held at 12 sites in Hokkaido, and they are operated by the Ainu Association of Hokkaido. A text book, *Akor itak*, was published in 1994 and is being used at these lessons.

アイヌ語の歴史

明治時代以降、日本語による教育をはじめとするアイヌ民族の同化政策が押し進められ、アイヌ語は日常生活から急速に姿を消していきました。大人のアイヌの集まりなどでは、自然にアイヌ語が口をついて出ましたが、子どもたちには、その将来を考えて、アイヌ語より日本語を身に付けさせようとする親が多かったといえます。

その結果、しだいにアイヌ語は「滅びゆく言葉」とみなされるようになりました。

日本においてアイヌ語研究の基礎を築いたといわれる金田一京助さんや久保寺逸彦さんなども、基本的にはこのような認識を越えることはありませんでした。

しかし、こうした時代の中でも自らペンをとってアイヌ語の記録を残しているアイヌの人たちがいます。登別市幌別出身の知里幸恵さんは『アイヌ神謡集』(1923)を世に送り出しています。幸恵さんのおばの金成マツさんは、膨大なユーカラ(ユカラ)筆録ノートを残しています。また、弟である知里真志保さんは、北海道大学で教鞭をとりながら、アイヌ語を言語学的に研究し、『アイヌ語法概説』など、数々の著作を残しましたが、大著『分類アイヌ語辞典』の執筆中に早世しています。

そのほか、門別町の鍋沢元蔵さん、静内町の佐々木太郎さん、白糠町の貫塩喜蔵さんなどは、自らのアイヌ語知識や、周囲の伝承を記録することに情熱をそそぎました。

このような人たちの取り組みが、次代の新しい流れの基礎となっています。

アイヌ語の現状

近年、アイヌ語を取りまく状況は大きく変化しました。アイヌ民族のさまざまな動きが同化主義の枠を超えて展開するようになる中で、その伝統文化にあらためて関心が寄せられ、アイヌ語の継承や復興が唱えられるようになったのです。

1970年代に入ると、北海道内の何か所かで、アイヌ自身によるアイヌ語学習会が開かれるようになりました。その後、北海道ウタリ協会（現 北海道アイヌ協会）によるアイヌ語学習会が開催されたり、平取町二風谷の萱野茂さんが、子どもたちを対象にしたアイヌ語塾を開設するなど、新しい活動も始まりました。また、道内ばかりでなく、道外にもアイヌ語を学ぼうとする人たちが出てきました。このほか、静内町の葛野辰次郎さんは、アイヌ自身が祖先の言葉を学ぶことを第一の目的に編集された『キムスポ』を書きました。さらに、静内町の織田ステノさんと鶴居村の八重九郎さんが語った口承文芸の記録の刊行がすすんでいます。

1987(昭和62)年には、北海道ウタリ協会が主催するアイヌ語教室がスタートし、現



千歳アイヌ語教室のアイヌ語劇練習風景



キムスポ

在（2003年3月）、全道14か所でアイヌ語教室が開講されています。1994(平成6)年には、アイヌ語教室共通のテキストとして『アコロ イタッ』が刊行されました。そのほか、教材や辞書なども増え、アイヌ語に興味を持ち、学ぶ人たちが多くなってきています。

アイヌ語についての記録と辞典

アイヌ語についての文献上の最初の記録は、1621(元和7)年に松前に渡ったイタリアのイエズス会の宣教師アンジェリスによるものとされています。彼がローマ法王のもとに送った報告書に、54語のアイヌ語が含まれています。また1643(寛永20)年には、オランダ人のフリースが、樺太と北海道に寄港してアイヌ語の記録を残しています。

18世紀には、ロシアのクラシェニンニコフによる北千島アイヌ語の語彙集(285語)、フランスのラ・ペルーズによる樺太での記録(160語)、日本で最初のまとまったアイヌ語彙集『もしほ草』(上原熊次郎、約2,700語)などが知られています。

1875(明治8)年に出版されたドプロトヴォルスキーによる『アイヌ語 ロシア語辞典』は、『もしほ草』などのそれまでに刊行されたさまざまな資料をまとめ、さらに彼自身が樺太で集めた項目を加えて編集されたもので、見出し語は1万語を超えています。

1938(昭和13)年には、北海道で布教活動をしていた聖公会のイギリス人パチエラーが『アイヌ・英・和辞典』の第4版を刊行しました。この辞書は項目数約2万におよび、日本語訳の誤りなどいろいろな問題が指摘されながらも、今もなおアイヌ語の研究には欠かせない文献の一つになっています。

ここ数年、あらたな調査や研究の成果に基づくアイヌ語辞典の刊行が始まり、アイヌ語の学習・研究の状況はこの点でも大きく変わりつつあります。

もしほ草



アイヌ・英・和辞典



[2] アイヌ語を学ぶために

アイヌ語の文字と表記

アイヌ語は、特定の文字で表記する方法が定まっていません。そのため、「アイヌ語には文字がない」といわれることも多いようです。しかし、大正時代のころからは、アイヌ自身がローマ字やひらがな、カタカナなどを用いてアイヌ語を書き残しています。

アイヌ語教科書の『アコロ イタク』に採用されているローマ字表記は、「簡易音素表記」と呼ばれているものです。この表記は、アイヌ語の発音を書き表す工夫をしたカタカナ表記とともに、各地のアイヌ語教室や研究者に広く使われるようになってきています。ここでは、「簡易音素表記」に基づき、アイヌ語のカタカナ・ローマ字表記と発音の特徴について解説します。



アコロ イタク

Language Characteristics:

Today, Japanese Katakana and Roman letters have been adapted for writing the Ainu language. The tradition of putting the Ainu language written form started recently.

It is said the Ainu language was spoken as an everyday language in Hokkaido, Sakhalin, the Kuril Islands and the northern part of the Tohoku district (northeast Japan).

There is little information concerning the dialect which was spoken in the northern part of Tohoku and its words and grammar are unknown. Only about 1000 words of northern Kuril Islands have been recorded.

The dialects of Hokkaido and the Sakhalin are quite different in terms of pronunciation and words. There are also differences between the grammar and words in each region in Hokkaido.

●カタカナ表記とローマ字の簡易音素表記

*母音で終わる音

ア	a	イ	i	ウ	u	エ	e	オ	o
カ	ka	キ	ki	ク	ku	ケ	ke	コ	ko
サ	sa	シ	si	ス	su	セ	se	ソ	so
タ	ta			トゥ	tu	テ	te	ト	to
チャ	ca	チ	ci	チュ	cu	チェ	ce	チョ	co
ナ	na	ニ	ni	ヌ	nu	ネ	ne	ノ	no
ハ	ha	ヒ	hi	フ	hu	ヘ	he	ホ	ho
パ	pa	ピ	pi	プ	pu	ペ	pe	ポ	po
マ	ma	ミ	mi	ム	mu	メ	me	モ	mo
ヤ	ya			ユ	yu	イエ	ye	ヨ	yo
ラ	ra	リ	ri	ル	ru	レ	re	ロ	ro
ワ	wa					ウェ	we	ウォ	wo

*後ろに母音が続かない音

プ	p	ツ	t	ク	k	ム	m	ン	n
シ	s	-ラ, -リ, -ル, -レ, -ロ	r	イ	-y	ウ	-w		

— ' (音を出さない区切りの印)

アイヌ語の読み書き ■ ミニ知識 ■

①清音と濁音は、たとえば「カ ka」と「ガ ga」や「タ ta」と「ダ da」などの区別はなく、どちらで発音しても同じ意味になります。また後ろに母音が続かない「s」は「シ」のように聞こえることも「ス」のように聞こえることもあります。また「チュ cu」や「トゥ tu」も「ツ」のように聞こえることがあります。

このパンフレットのカタカナ表記は「カ」と「ガ」、「シ」と「ス」、「トゥ」と「ツ」などを聞こえたとおりに書き分けています。しかしローマ字では、「ka」「s」「tu」のように統一して辞書などが引きやすいようにしています。

②アイヌ語は、母音の有無を区別しなければ意味が明確になりません。

【例1】

ケレ	ker	靴
ケレ	kere	～に触る

エトロ	etor	鼻水
エトロ	etoro	いびきをかく

アシ	as	立つ
アシ	asi	～を立てる

キサラ	kisar	耳
キサラ	kisara	その耳

③後ろに母音が続かない「-r」のカタカナ表記は、その直前にある母音（ア a、イ i、ウ u、エ e、オ o）に引かれた形で、ar「アラ」、ir「イリ」、ur「ウル」、er「エレ」、or「オロ」と小文字を用います。

④トゥ tu の読み方は、「トゥナイト」の「トゥ」と同じような発音です。

⑤イエ ye の読み方は、「イェスタデイ」の「イェ」と同じような発音です。

⑥ウェ we の読み方は、「ウェールズ」の「ウェ」と同じような発音です。

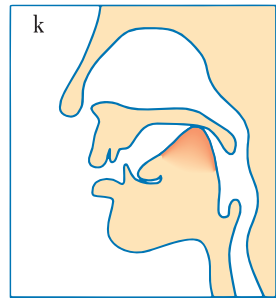
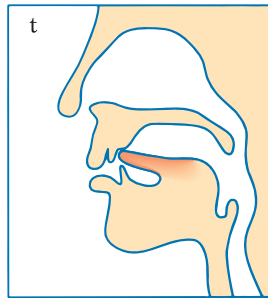
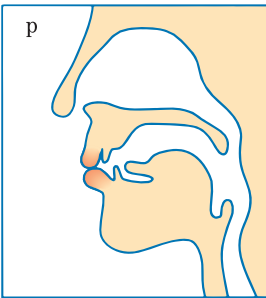
(土)ウオ wo の読み方は、「ウォークマン」の「ウォ」と同じような発音です。

(祭)イ i, y と ウ u, w の場合は、それぞれ母音と子音の違いがありますが、カタカナ表記では区別していません。

(祝例2)の単語は、日本語を聞き慣れた人の耳では、どれも「ッ」と聞こえやすい音ですが、実際に発声すると、口の形が違うのがわかるでしょう。

[例2]

	カタカナ 表記	ローマ字 表記	意味	口の形
p	サッ	sap	前に出る	「サッポロ」の「ポロ」を言わない発声です。
t	サッ	sat	乾く	「サッと」の「と」を言わない発声です。
k	サク	sak	夏	「サッカー」の「カー」を言わない発声です。



〈くちびると舌の動き〉

方言と地域

アイヌ語は、おおまかに北海道・樺太・北千島・東北北部の4つの地域の方言に分かれると考えられています。そのうち、東北地方の北部で話されていたはずの方言は、ほとんど資料がないままに、単語や文法がわからなくなってしまいました。また千島列島の北の方で話されていた方言についても、1,000語ほどの単語の記録しか残されていません。

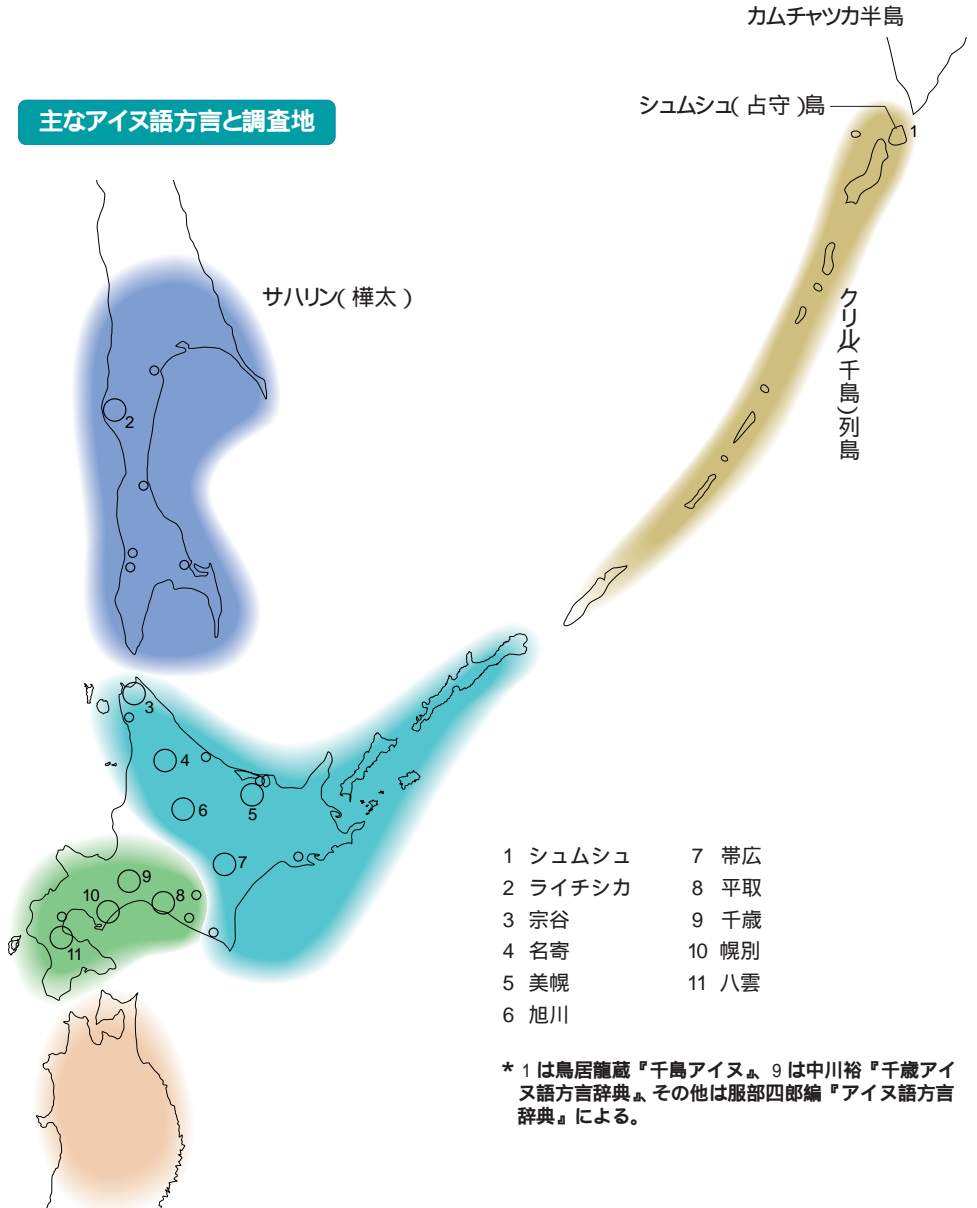
北海道と樺太の方言とでは、発音や単語などがかなり異なっています。道内でも、地域によって単語や文法などに多少の違いがあります。しかし、青森から鹿児島までの日本語の方言の違いに比べて、道内のアイヌ語の方言の違いは、それほど大きくありません。

北海道の方言を、西南部の方言グループと東北部の方言グループなどに大きく分類することもできます。また、同じ北海道の中でも宗谷地方の言葉は、樺太の方言に近いと言われています。

	千歳市(西南部)		本別町(東部)		ライチシカ(サハリン)	
おじいさん	エカシ	ekasi	エカシ	ekasi	ヘンケ	henke
大きい	ポロ	poro	ポロ	poro	ポロ	poro
鹿	ユク	yuk	ユク	yuk	ユフ	yuh
おばあさん	フチ	huci	フチ	huci	アハチ	ahci
~と一緒に	トゥラ	tura	トゥラ	tura	トゥラ	tura
どこから	フナクワ	hunak wa	オノン	onon	ナハワ	nah wa
~を運ぶ	ルラ	rura	ルラ	rura	ルーラ	ruura

日本語では、東京の山の手の方言をもとにして標準語がつくられ、教育やマスコミなどで広められてきました。しかし、アイヌ語には現在のところそうした標準語のようなものはありません。アイヌ語教科書『アコロ イタク』は、北海道内のさまざまな方言の学習のために利用できるようになっています。このパンフレットでは、特に断らないかぎり、十勝地方の本別町で話されている方言に基づいて説明しています。

主なアイヌ語方言と調査地



アイヌ語の文法

文の中の単語の順番だけを見ると、アイヌ語は日本語とよく似ています。たとえば、前のページの単語を使って下のように作文することができます。このような語順を持った言語は世界にたくさんあります。

エカシ	ポロ	ユク	フチ	トゥラ	オノン	ルラ?
ekasi	poro	yuk	huci	tura	onon	rura?
おじいさんは	大きな	鹿を	おばあさん	といっしょに	どこから	運んだの?
主語	修飾語	被修飾語	名詞	助詞	副詞	述語
	目的語					

アイヌ語の文法が、日本語と大きく異なっている点もあります。まず、アイヌ語では、ある動作が話し手や聞き手などのうち、誰によって行われるのか（人称の区別）を、英語などと同じように必ず表示しなければなりません。「歩く」という動詞に「私が」「私たちが」「君が」「君たちが」などの人称接辞がついた形を見てみましょう。

クアアカシ ku=apkas 「私が歩く」 アアカシアシ apkas=as 「私たちが歩く」
エアアカシ e=apkas 「君が歩く」 エチアアカシ eci=apkas 「君たちが歩く」

さらに、「～で」「～に」というような日本語の助詞にあたるものが、動詞本体の前に添えられることもあります。たとえば、アアカシ apkas 「歩く」の前に コ ko 「～に」を添えて、次のような言い方もできます。

エカシ クコアアカシ 「おじいさんのところへ私が歩いていく」
ekasi ku=koapkas
おじいさん 私が・～のところへ歩いていく

否定を表す言葉（「～しない」「～するな」）も、日本語とは逆に、動詞の前に置かれます。

ソモ クアッカシ 「私は歩かない」
somo ku=apkas
～しない 私が・歩く

イテッケ アッカシ 「歩くな」
itekke apkas
～するな 歩け



アイヌの口頭文芸

伝統的なアイヌ文化は、さまざまな口頭文芸をはぐくんできました。これは、文字に書いたものを読むのではなく、語り手がそらで語るのを楽しみに伝えられてきた文芸です。文字による文芸と比べて、語り手のそのときどきの語り口や表現などに、その人・その時ならではの味わいが含まれるのも特徴です。

口頭文芸のうち、物語としての内容を持つものは大きく分けて、英雄叙事詩、神謡、散文説話の3つがあります。地域によって、英雄叙事詩はユカラ、サコロペ、ハウキなど、神謡はカムイユカラ、オイナなど、散文説話はウエペケレ、トゥイタツなどと呼ばれます。この中で「ユカラ(ユカラ)」という言葉が比較的有名ですが、この一語ですべての口頭文芸をさすべきではありません。

英雄叙事詩は、短く繰り返されるメロディーに乗せてリズムカルな拍子や掛け声を伴い、数十分から数時間にわたって演じます。物語の内容は、超人的な英雄が親の仇や恋仇と戦った自分の身の上を物語るというものが一般的です。

神謡も短い繰り返しのメロディーに乗せますが、「サケヘ」「サハ」などと呼ばれる、個々の物語に固有のリフレインがひんぱんに挿入される点が特徴です。数分から数十分の間に、動物や自然現象の神様が、神々の世界や人間の世界で体験した自分の身の上を物語る、というかたちをとります。

散文説話は、メロディーを伴わない口調で十数分から数時間かけて語ります。物語の内容はさまざまで、人間の世界へやって来た神様と結婚したが、秘密をのぞいたた

〈サケヘ〉の例	◆火の神	「アテヤテヤテンナ テンナ」
	◆雷の神	「リットウンナ」
	◆クジラの神	「アトユット」
	◆キツネの神	「ハラウオイウオイ」
	◆シマフクロウの神	「フムフム カト」

めに妻に去られてしまった男が自分の身の上を物語るといふ、神謡とは視点を逆にしたようなお話もあります。

口頭文芸は、儀式の一部として語られたり、ふだんの生活のなかで娯楽として親しまれてきました。特に散文説話には伝統的なアイヌの生活や文化が描かれていると考えられます。また、自分たちの直接の先祖の大切な体験を伝える物語も、一般の散文物語と同じようなかたちで語られます。



たくさんの物語を残した織田ステノさんと神に祈る葛野辰次郎さん

Oral Tradition:

The Ainu culture has many kinds of oral tradition. Amongst them, oral epics are roughly classified into three categories. Each epic has its own name in some region. 1) The "heroic epic" is called *yukar* or *sakorpe* or *hawki*. They are performed with repeating melodies. They are mainly told in the voices of superhuman heroes. 2) The "story of Gods" is called *kamuyyukar* or *oyna*. Each story has its own short refrain. They are mainly told by the spirit-Gods of animals or natural phenomenon. 3) Finally, the "narrative" is called *uepeker* or *tuytak*. They are performed without melodies and the stories are full of varieties.

[3] アイヌ語に親しむために

単語と会話例

それでは、実際にアイヌ語の単語と会話に、少し触れてみましょう。

● 身体を表わす単語と会話例

パケ	pake	「頭」 <i>head</i>	オトプ	otop	「髪の毛」 <i>hair</i>
ナン	nan	「顔」 <i>face</i>	ランヌマ	rannuma	「眉毛」 <i>eyebrow</i>
シク	sik	「目」 <i>eye</i>	エトゥ	etu	「鼻」 <i>nose</i>
チャラ	car	「口」 <i>mouth</i>	パルンペ	parunpe	「舌」 <i>tongue</i>
イマク	imak	「歯」 <i>tooth</i>	キサラ	kisar	「耳」 <i>ear</i>
クケウ	kukew	「肩」 <i>shoulder</i>	シットツケウ	sittokkew	「ひじ」 <i>elbow</i>
テク	tek	「手」 <i>hand</i>	アシケペツ	askepet	「指」 <i>finger</i>
ネトバケ	netopake	「胴」 <i>trunk</i>	ペンラム	penram	「胸」 <i>breast</i>
ホン	hon	「腹」 <i>abdomen</i>	オソロ	osor	「尻」 <i>buttocks</i>
ハンカプイ	hankapuy	「へそ」 <i>navel</i>	セトウル	setur	「背中」 <i>back</i>
イッケウ	ikkew	「腰」 <i>waist</i>	チキリ	cikir	「足」 <i>leg</i>
コッカパケ	kokkapake	「ひざ」 <i>knee</i>	ケスプ	kesup	「かかと」 <i>heel</i>



クホニ アカ フムアン
 ku=honi arka hum an.
 おなかが 痛い。

チッ シケレペニ アポッテ ワ ク チッ ポンノ カイ ラッチ ナンコロ
 cik sikerpe ni a=popte wa ku cik ponno kay ratci nankor.
 それなら、シコロの木を 煮 て 飲むと 少し (でも) 良くなる よ。

クセトゥルフ マヤイケ クス キキ ワ エンコレ
 ku=seturuhu mayayke kus kiki wa en=kore.
 背中が かゆい から、かいて ください。

エ
 e.
 はい。

イヤイライケレ
 iyayraykere.
 ありがとう。

● 親族を表わす単語と会話例

◆ 意味

フチ	huci	「おばあさん」 <i>grandmother</i>
エカシ	ekasi	「おじいさん」 <i>grandfather</i>
ハボ	hapo	「母」 <i>mother</i>
ミチ	mici	「父」 <i>father</i>
ウナラベ	unarpe	「おばさん」 <i>aunt</i>
アチャ	aca	「おじさん」 <i>uncle</i>
サ	sa	「姉」 <i>elder sister</i>
ユブ	yup	「兄」 <i>elder brother</i>
マタク	matak	「姉から見た妹」 <i>younger sister</i>
トゥレシ	tures	「兄から見た妹」 <i>younger sister</i>
アク	ak	「弟」 <i>younger brother</i>
エカチ	ekaci	「子ども」 <i>child</i>
マツカラク	matkarku	「姪」 <i>niece</i>
カラク	karku	「甥」 <i>nephew</i>

◆ 「私の～」という言い方

クコロ	フチ	ku=kor huci	「私のおばあさん」 <i>my grandmother</i>
クコロ	エカシ	ku=kor ekasi	「私のおじいさん」 <i>my grandfather</i>
クハボ		ku=hapo	「私のおかあさん」 <i>my mother</i>
クミチ		ku=mici	「私のおとうさん」 <i>my father</i>
クコンナラベ		ku=kor unarpe	「私のおばさん」 <i>my aunt</i>
クコラチャ		ku=kor aca	「私のおじさん」 <i>my uncle</i>
クサボ		ku=sapo	「私のおねえさん」 <i>my elder sister</i>
クユビ		ku=yupi	「私のおにいさん」 <i>my elder brother</i>
クマタキ		ku=mataki	「私の妹」 <i>my younger sister</i>
クトウレシ		ku=turesi	「私の妹」 <i>my younger sister</i>
クアキ		ku=aki	「私の弟」 <i>my younger brother</i>
クコロ	エカチ	ku=kor ekaci	「私の子ども」 <i>my child</i>
クマツカラク		ku=matkarku	「私の姪」 <i>my niece</i>
クカラク		ku=karku	「私の甥」 <i>my nephew</i>

トオカイ ウタラ ネン タッ オカイ ヤ?
tookay utar nen tap okay ya?
あちらの 方々は どなた です か?

オノン アラキアン ル タバナ?
onon arki=an ru tap an a?
どちらから いらっしゃい ましたか? (ていねいな言い方)

オノン エエッ ル タバナ?
onon e=ek ru tap an a?
どこから 来た の? (一般的な言い方)

エノン エオマン テッ エエッ ル タバナ?
enon e=oman tek e=ek ru tap an a?
どこへ 行って 来た の?

エミチヒ エノン オマナ?
e=micihi enon oman a?
お父さんは どこへ 行ったの?

エハポホ イネ?
e=hapoho ine?
お母さんは どこ?

タント アナッ チセ コロエカシ オアッサム ル ヘ?
tanto anak cise kor ekasi owassam ru he?
今日 は 家のおじいさんは いない のかい?

イルカイ エノン カイ オマナ ル エシタッアン ネ
irukay enon kay oman a ru estap an ne.
ちょっと どこかへ 行って います。

●食べ物に関する単語と会話例

アエプ	aep	「食べ物」 <i>food</i>	スケ	suke	「料理する」 <i>cook</i>
オハウ	ohaw	「汁物」 <i>soup</i>	カム	kam	「肉」 <i>meat</i>
チェプ	cep	「魚」 <i>fish</i>	チポロ	cipor	「魚の卵」 <i>fish roe</i>
ワッカ	wakka	「水」 <i>water</i>	エハ	eha	「ヤブマメ」 <i>hog-peanut</i>
プクサキナ	pukusa kina	「ニリンソウ」 <i>a kind of anemone</i>	マカヨ	makayo	「フキノトウ」 <i>butterbur sprout</i>
ハッ	hat	「ヤマブドウ」 <i>wild grapevine</i>	クッチ	kutci	「さるなし」 <i>tore vine</i>
ノヤ	noya	「ヨモギ」 <i>mugwort</i>			

ウクラン ポンノ クイベ アクス アンケシアナクス クイベ ルスイ。
 ukuran ponno ku=ipe a kus ankes an akus ku=ipe rusuy.
 タベ 少し ごはんを食べた けど、夜中に なって お腹がすいてしまった。

イベ ポンノ エネ イサム ルヘ？
 ipe ponno ene isam ru he？
 食べる物 少し でも ない の？

イーシ、 ポンノ イベ イカシマ アクス トオン タ アン ナンコン ナ。
 is, ponno ipe ikasma a kus toon ta an nankor na.
 あー、 少し 食べ物 あまっ たので あそこ においてあるよ。

リンゴ クエ ルスイ クス クウク ヤッカイ ピリカ ヤ?
RINGO ku=e rusuy kus ku=uk yakkay pirka ya?
リンゴ が食べ たい から、とって も いい?

リンゴ エエ ルスイ ルへ?
RINGO e=e rusuy ru he?
リンゴ が食べ たい の?

リンゴ エエ ルスイ チク ウク。 オシ ネプ エエ ルスイ?
RINGO e=e rusuy cik uk. os nep e=e rusuy?
リンゴ が食べ たい なら 取りなさい。次に 何が 食べ たいの?

エイコシテック イベ ケラアン ワ クエ カシパテック クホニ シク。
eikostek ipe keraan wa ku=e kaspa tek ku=honi sik.
あまりにも 食べ物が おいしく て 食べ すぎたので お腹が いっぱい。

クアニ ウサ クホニ シク。
kuani usa ku=honi sik.
私 も お腹が いっぱい。

エエスイバ ル へ?
e=esuypa ru he?
お前は眠い の?

クエスイバ フム アン。
ku=esuypa hum an.
私は眠い。

チク エタク ホッケ。
cik etak hotke.
それなら 早く 寝なさい。

● 数を表わす単語

1	sinep	シネプ	1人	sinen	シネン
2	tup	トゥプ	2人	tun	トゥン
3	rep	レプ	3人	ren	レン
4	inep	イネプ	4人	inen	イネン
5	asiknep	アシクネプ	5人	asiknen	アシクネン
6	iwanpe	イワンペ	6人	iwaniw	イワニウ
7	arwanpe	アラワンペ	7人	arwaniw	アラワニウ
8	tupesnanpe	トゥペサンペ	8人	tupesaniw	トゥペサニウ
9	sinepesanpe	シネペサンペ	9人	sinepesaniw	シネペサニウ
10	wanpe	ワンペ	10人	iwaniw	イワニウ

● その他よく使われる単語と会話例

タント	tanto	「今日」 <i>today</i>	タヌ克蘭	tanukuran	「今夜」 <i>tonight</i>
ヌマン	numan	「昨日」 <i>yesterday</i>	ウ克蘭	ukuran	「夕べ」 <i>evening</i>
ホシカヌマン	hoskanuman	「おととい」 <i>the day before yesterday</i>	ニサッタ	nisatta	「明日」 <i>tomorrow</i>
ト	to	「日」 <i>day</i>	パ	pa	「年」 <i>year</i>
ツプ	cup	「月」 <i>month</i>	クンナノ	kunnano	「朝」 <i>morning</i>
トケシ	tokes	「昼」 <i>noon</i>	オヌマン	onuman	「晩」 <i>night</i>
パイカラ	paykar	「春」 <i>spring</i>	サク	sak	「夏」 <i>summer</i>
ツク	cuk	「秋」 <i>autumn</i>	マタ	mata	「冬」 <i>winter</i>

ルヤンベ	ruyanpe	「雨」 <i>rain</i>	ルヤンベ	ルイ	ruyanpe ruy 「雨がふる」
ウパシ	upas	「雪」 <i>snow</i>	ウパシ	ルイ	upas ruy 「雪が降る」
レラ	rera	「風」 <i>wind</i>	レラ	ルイ レラ ユツケ	rera ruy 「風が吹く」 rera yupke 「風が強い」
シリピリカ	sirpirka	「天気が良い」			
シリウエン	sirwen	「天気が悪い」			
ウララ	urar	「霧」 <i>fog</i>			
タシコロ	taskor	「霜」 <i>frost</i>			

タヌクラン ノチウ ロシキル ピリカ クス ニサッタ シリピリカ ナンコロ。
tanukuran nociw roski ru pirka kus nisatta sirpirka nankor.
今夜は 星が きれいに 見える ので 明日は 天気がよい だろう。



*ノチウ ロシキ ル ピリカの逐語訳は、「星・立つ・様子・良い」になります。

*この会話例は、本別町に住む沢井トメノさんからお聞きしたものです。

アイヌ語の地名

北海道の市町村名212*のうち、約8割がアイヌ語に由来しています。現在では、そのほとんどが漢字で書き表されています。そのために、アイヌ語と気付かない人もいますが、北海道に暮らす人たちのほとんどは、自分の住む町や山などの名前がアイヌ語であることを知っているでしょう。

アイヌの人たちの多くが川筋に住んで、生活に必要な資材を求めていました。また、狩猟や交易のための交通路としても、川は重要な存在でした。ですから、川(ペツ pet)や沢(ナイ nay)を意味する地名がとても多くあります。アイヌ語地名は、その地形の特徴や土地の産物、そこでよく行われることなどを語源としています。たとえば、キナ・チャ・ウシ kina-ca-usi という地名の語源は「蒲・を切り取る・場所」ですから、そこはゴザを編む材料が豊富であったことがわかるわけです。

このように、アイヌ語地名は必要に応じて名付けられたものであり、地名をつけた当時の人たちの生活が反映されているものです。その意味で、アイヌ語地名は歴史的にも重要な文化財といえることができます。

*「キナ」は生活に役立つ草をいいます。普通、「蒲(ガマ)」はシキナ sikina といいます。

* 2007(平成19年)3月現在の道内の市町村数は180です。本文の記述は、平成15年度時点の市町村名に基づくものです。

Place Names Derived from the Ainu Language:

Approximately 80 percent of the place names of Hokkaido's 212 municipalities originate from the Ainu language. Because Ainu people named them for the conveniences of their life, these place names describe the geographical features and specialties of the land.

Kanji characters are used to express most of these Ainu place names in written form. Kanjis with similar sounds were combined to reproduce Ainu pronunciations, but in many cases the sound did not match the original because of the unavoidable differences in sound between Kanji readings and Ainu pronunciations.

●アイヌ語地名の研究について

アイヌ語地名は、アイヌ民族の言葉・歴史・文化を身近に伝えるものであり、関心を寄せる人も多いようです。しかし現在では、自然の地形や社会的な生活形態も大きく変化しており、アイヌの人たちが自然との関わりの中で名付けた意味を、いま正確に証明するのはなかなか難しいことです。本来、ごく狭い範囲につけた地名がひとつの町やもっと広い地方を呼び表すようになったことが多く、地名の由来がわからなくなったところもあります。

アイヌ語地名について調べたり考えていくためには、その音にあったアイヌ語の単語を当てはめるだけでは不十分です。それぞれの単語の意味はもちろん、名詞と動詞の関係などの文法を正確につかんでおき、さらには実際に地形の特徴やその土地の伝承なども調べていくことが求められます。

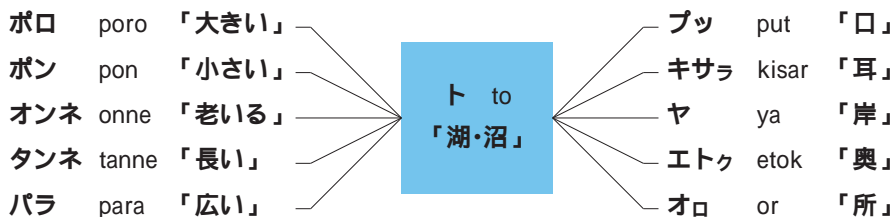
アイヌ語地名の研究は、こうした厳密な調査によって、はじめて広がりをもって発展していく学問だということができます。



山田秀三『北海道の地名』

ト to 「湖・沼」につく単語

ここでは、特にト to というアイヌ語地名を代表にさせて解説しますが、これは「湖」や「沼」などの幅の広い意味があります。「～の湖」や「湖の～」というように、「湖」の前後に動詞や名詞がついています。もちろん、「川」や「山」なども同じような仕組みで成り立っています。



アイヌ語の意味からきた地名

タンネ・ト	tanne-to	「長い・沼」	長沼	ながぬま（長沼町）
ポロ・ト	poro-to	「大きい・湖」	大沼	おおぬま（七飯町）
ユク・ルペシペ	yuk rupespe	「鹿・山越え路」	鹿越	しかごえ（南富良野町）



大沼

●アイヌ語地名の漢字表現について

アイヌ語で呼び習わされた地名は、さまざまな漢字が当てられたため、原音と違う発音になったものが多くあります。また、漢字は表意文字であるため、アイヌ語の意味とは違うイメージが与えられるようになりました。

文法上、ト to「湖」やソ so「滝」などの母音は、「トー」「ソー」などと伸ばしても、意味はまったく変わりません。その伸びた音を「ウ」や「オ」と聞き取って、漢字に置き換えられる事例が多くありました。（*印は、旧地名を表します）

- バラ・ト para-to 「広い・湖」
茨戸 ばらと（札幌市）
- *荊苞 ばらとう（帯広市）
- *原遠 はらとお（浦河町）
- トー・ヤ to-ya 「湖・岸」
洞爺 とうや（洞爺村）
遠矢 とおや（釧路町）
- トー・プツ to-put 「湖・口」（トー・プトゥ to-putu 「湖の口」）
涛沸 とうふつ（網走市）
十弗 とおふつ（豊頃町）
遠太 とうふと（根室市）
統太 とうふと（浦幌町）
- *鐺沸 とうふつ（佐呂間町の旧名）
- *遠仏 とおぶつ（静内町の一部の旧地名）
- *塘沸 とうふつ（浦河町）

アイヌ語の音に当てられた漢字のいろいろ

*印は、旧地名を表します

モ・ペツ	mo-pet	「小さな(静かな)・川」
	紋別	もんべつ (紋別市)
	門別	もんべつ (門別町)
シ・ペツ	si-pet	「ほんとうの(大きい)・川」
	土別	しべつ (土別市)
	標津	しべつ (標津町)
オンネ・ペツ	onne-pet	「老いた(大きい)・川」
	温根別	おんねべつ (土別市)
	遠音別	おんねべつ (斜里町)
クマ・ウシ	kuma-us-i	クマ・ウシ 「物干し・多くある・所」
	熊石	くまいし (熊石町)
	熊牛	くまうし (標茶町、清水町の地名)
モ・イワ	mo-iwa	「小さな・山」
	茂岩	もいわ (豊頃町)
	萌和	もいわ (大樹町)
	藻岩	もいわ (札幌市内の山の名)
ノカ・ピラ	noka-pira	「形象(のある)・崖」
	糠平	ぬかびら (上士幌町内の地名、川の名、湖の名)
	額平	ぬかびら (平取町内の川の名。平取町と日高町の境界にある山)
サラ・プツ	sar-put	「葦原・口」(サラ・プトウ sar-putu 「葦原の口」)
	*佐瑠太	さるふと (門別町富川町の旧名)
	猿払	さるふつ (猿払村)

アイヌ語を学ぶための参考書

基本的な、あるいは重要だと思われる図書をいくつかあげてみました*。

<アイヌ語・アイヌ文化全般について>

- アイヌ民族博物館監修『アイヌ文化の基礎知識』草風館（1993）
題名のとおり、アイヌ文化の様々な項目についてわかりやすく説明したものです。
- 札幌学院大学人文学部編『アイヌ文化に学ぶ』札幌学院大学生生活協同組合（1990）
大学の公開講座の記録です。アイヌ語の歴史や文芸のほか、アイヌ絵・衣服・食べ物にする植物などについて、当時の研究の最前線をふまえた解説になっています。

<アイヌ語学習の手引き>

- 社団法人北海道ウタリ協会(現 北海道アイヌ協会)『アコロ イタク AKOR ITAK』(1994)
全道各地のアイヌ語教室で用いるために作成されたアイヌ語の入門書です。ていねいな説明に加えて、各地の方言を併記していることも特長です。ビデオ教材も発売されています。
- 知里真志保『アイヌ語入門』北海道出版企画センター（1985復刊）
特に地名研究者のために書かれた小型の文法書です。
- 田村すず子『言語学大辞典』第1巻所収「アイヌ語」三省堂（1988）
再録『言語学大辞典セレクション 日本列島の言語』三省堂（1997）
英語版『The Ainu Language』三省堂（2000）
言語学を専門的に学ぼうとする人を対象に書かれたもので、約80ページにおよぶ現時点で最新のアイヌ語文法の概説書です。

*アイヌ語やアイヌ文化に関する学習のための図書や視聴覚資料、博物館等の施設については、『アイヌ文化紹介小冊子10 総集編』（2005年）でも紹介しているほか、当研究センターのホームページ上に、その後の追加・更新情報を掲載しています。

<アイヌ語の辞典>

- 中川裕『アイヌ語千歳方言辞典』草風館（1995）
千歳市で採録した単語約3,700語を収めています。
初心者にも使いやすいようにカタカナ表記を主にしたアイウエオ順の配列になっており、用例も豊富です。
- 服部四郎編『アイヌ語方言辞典』岩波書店（1964）
北海道内8か所のほか、樺太、千島の各方言について調査したものです。
- 知里真志保『分類アイヌ語辞典』（『知里真志保著作集』別巻Ⅰ・Ⅱ所収）平凡社（1975-76）
植物編・動物編・人間編があり、いずれも民俗学的な情報をたくさん含んでいます。
動物編が著者の遺稿になりました。
- 萱野茂『萱野茂のアイヌ語辞典』三省堂（1996／CD-ROM版 1999／2版2002）
- 田村すず子『アイヌ語沙流方言辞典』草風館（1996／再版1998）



<アイヌ語地名について>

- 山田秀三『北海道の地名』北海道新聞社（1984）
復刊：草風館（2000）
過去の文献にあたり、実地の調査を行なう、という方法を長年積み重ねた著者の研究をまとめたものです。
- 山田秀三『アイヌ語地名の研究』全四巻 草風館（1995新装版）
北海道はもとより東北のアイヌ語地名などについての研究論文や概説を収めた著作集です。北海道の地名について現時点でもっとも信頼のおける文献です。
- 知里真志保『地名アイヌ語小辞典』北海道出版企画センター（1984復刊）
アイヌ語地名によく出てくる単語の意味と用法について解説しています。

<アイヌの物語について>

萱野茂『カムイユカラと昔話』小学館（1988）
全部で51編を収録しています。昔話は日本語
訳を、カムイユカラ（神謡）にはカタカナ表記
のアイヌ語も併記している読みやすい本です。

片山龍峯編『カムイユカラ』片山言語文化研究所（1995）

6編の神謡がカタカナとローマ字のアイヌ語だけで表記され、詳細な解説書と録音
テープがついています。

知里幸恵『アイヌ神謡集』岩波書店（1978）

ローマ字表記によるアイヌ語と日本語が対訳になっている文庫本です。

久保寺逸彦『アイヌ叙事詩 神謡・聖伝の研究』岩波書店（1977）

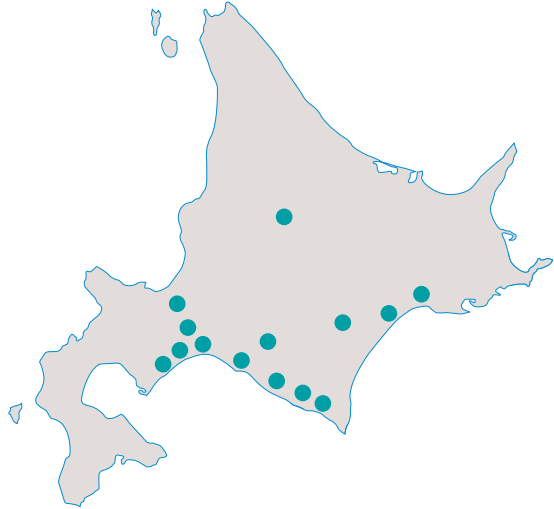
124編の物語とその詳しい注解を収めた専門的な文献です。

『岩波講座 日本文学史 第17巻 口承文学2・アイヌの文学』岩波書店（1997）



アイヌ語教室

- ・平取町二風谷アイヌ語教室
- ・旭川アイヌ語教室
- ・釧路アイヌ語教室
- ・浦河アイヌ語教室
- ・札幌アイヌ語教室
- ・白老アイヌ語教室
- ・千歳アイヌ語教室
- ・静内アイヌ語教室
- ・鶴川アイヌ語教室
- ・帯広アイヌ語教室
- ・白糠アイヌ語教室
- ・苫小牧アイヌ語教室
- ・登別アイヌ語教室
- ・様似アイヌ語教室



●協力〈敬称略〉

葛野辰次郎 澤井トメノ 切替英雄 千歳アイヌ語教室 新ひだか町アイヌ民俗資料館

<そのほか、本書の作成にあたって参考にさせていただいた文献>

- ・鳥居龍藏『千島アイヌ』吉川弘文館（1903）
- ・知里真志保『知里真志保著作集 全6巻』平凡社（1973:1993復刊）
- ・田村すず子『アイヌ語入門』早稲田大学語学教育研究所（1978）
- ・萩中美枝『アイヌの文学 ユーカラへの招待』（1980）
- ・知里真志保『アイヌ民譚集』岩波書店（1981）
- ・田村すず子『アイヌ語基礎語彙』同上（1983）
- ・田村すず子『アイヌ語入門解説』同上（1984）
- ・竹内理三編『角川日本地名大辞典1北海道』上・下巻 角川書店（1987）
- ・中川裕『ヨーロッパ人によるアイヌ語調査の歴史』（『アイヌ文化』第12号 1987）
- ・扇谷昌康・島田健一『沙流郡のアイヌ語地名Ⅰ』北海道出版企画センター（1988）

この小冊子は、環境に配慮した用紙を使用しています。
古紙配合率100%

発行 平成8年3月（2刷 平成15年3月）
（3刷 平成19年3月）
（4刷 平成22年3月）

編集 北海道立アイヌ民族文化研究センター
HOKKAIDO AINU CULTURE RESEARCH CENTER

〒060-0003 札幌市中央区北3条西7丁目 緑苑ビル 1階
TEL.011-272-8801 FAX.011-272-8850

<http://ainu-center.pref.hokkaido.jp/>

